

# Global PCO Forum Seoul 参加記

一般社団法人MICE総研 上級研究員 管埜 寛之

6月29日から30日にかけて韓国・ソウル江南地区のCOEXにて韓国のMICEイベント、KOREA MICE EXPO 2011が今年も開催されました。この展示会とともにさまざまなセミナーやシンポジウムなども開かれ、今や韓国MICE業界の一大イベントとなりつつあります。ここ数年MICEに国をあげて取り組んでいる韓国のモメンタム(勢い)を感じさせます。展示会の会期中に開かれたレセプションでは、ソウル市が全世界で第5位のコンベンションシティになった(UIA統計による)というニュースが発表され、大きな拍手が起きました。かの国のMICEの勢いは、まだまだ収まりそうにありません。その同時開催イベントのひとつ、韓国MICE協会と韓国PCO協会主催による「Global PCO Forum Seoul」(6月29日に開催)に参加してきました。ここでは、その内容を感想を交えてご報告したいと思います。

◇ ◇ ◇

この「Global PCO Forum Seoul」は、MICEの中でもPCOという市場にフォーカスしたセミナー&シンポジウムで、グローバルという名のとおり、同じ仕事をしている各国のPCOを集めてさまざまな課題や市場動向を語りあおうという主旨のも

のです。主催は、前記のとおり韓国MICE協会とPCOの集まりである韓国PCO協会(KAPCO)の2団体。といってもMICE協会の会長 エズモンド・オー氏はKAPCOのボードメンバーでもあるので、この2つの協会はかなり近い関係にあるようです。ともあれ韓国からの呼びかけに応じたのは、私どもを含めて、シンガポール、マレーシア、そして米国の4カ国。これに韓国からPCO1社とハリム大学院のファン教授がパネリストとして参加しました。聴講者はMICE業界の関係者およびMICEを勉強している学生たち。100人弱の集まりではありましたが、濃い内容の議論やプレゼンテーションが行われ、非常に興味深いフォーラムとなりました。

まずは参加パネリストの顔ぶれをご紹介します。

- ・ナンシー・タン(シンガポールのエース・デイトン・ダイレクト社、マネージング・ディレクター)
- ・エイモス・ウォング(マレーシアのAOSコンベンションズ&イベント社、マネージング・ディレクター)
- ・グレッグ・タリー(米国のタリー・マネジメント・グループ社、社長兼CEO)

- ・ベニー・キム(韓国のPCO、MECI社、社長兼CEO)
- ・ヒーコン・ファン教授(ハリム大学院。韓国では著名なMICE学部のある大学・大学院)

と私の6名でした。これにフロア・ディスカッションのモデレーターとして、やはりPCOであるEZpmp社のキム・ヘヨン氏と前半のパネルセッションをリードしてくれたMICEコンサルタントのミン・ヘヨン氏が加わるというパネリスト構成。ちなみに、今回の人選は我々グループのコングレが参加しているPCOのアライアンス、World PCO Alliance(WPCOA)の韓国メンバーでもあるPeople-Xのジェシー・ワジャン・リー氏(彼女はKAPCOのボードメンバーでもあります)の呼びかけによるものです。そのせいもあって、私を含む海外からのパネリストはすべてWPCOAメンバーでした。

さて、このフォーラムですが、14時に始まり終了したのが18時半という実に長丁場のものでした。その構成にしたがって報告することにしたしましょう。

## 第1部 プレゼンテーション

まず最初に行われたのは、各パネリストによる各国のプレゼンテー

ションでした。ひとり10分という持ち時間を使って、その国のPCO市場を説明・解説するという内容です。事前に事務局から共通の質問事項が配布され、その質問に応えるような内容で各自プレゼンすることになりました。その質問には、主に「PCO市場」、「PCOプランナーの状況」、「コンベンションの市場環境」、「PCOの収入モデル」、「政府からの支援状況」、そして「PCO市場の課題」という項目が含まれていました。日本をトップバッターとして、各自のプレゼンが続きましたが、パネリスト達は実に興味深い内容を話してくれました。例えば、ご承知の方も多いかもしれませんが、米国ではPCOという名前は業界でも一般的ではなく、Association Management Companies (AMC) とか Independent Meeting Professionals といった職種のほうがわかりやすい、ですとか、韓国におけるPCOは今や286社もあり(かの国ではPCOになるには登録を義務づけられているそうです)、特にここ数年は大きな伸びを見せているとか、国により、また業態などには大きな違いがあることを実感させられました。この点は、主催された韓国の2団体の関係者も思っていた以上の情報をえることができた、と終了後に語ってくれました。

## 第2部 PCO業界における チャレンジとは？

ここからパネルディスカッションになりました。モデレーターはMICEコンサルタントのミン・ヘヨン氏。彼女のリードで、PCO業界共通の課題やテーマを議論しました。議論は、まずファン教授の韓国PCO事情の話から始まりました。先生によると韓国のPCOは少人数の会社が多く、どうしても長時間労働になる傾向があること。国際的な広がりかけるといった課題がある、とのことでした。これに対して同じアジアであるシンガポールやマレーシア、そして日本も同様の悩みを抱えていることなどが語られ、従業員にどうやって仕事への意欲を持



続してもらおうかといった方法論や人材教育などに話が発展していきました。やはり国は違っても同じ種類の仕事をしているもの同士、共感することが多いと同時にそれぞれが知恵を出して、それぞれに切り抜けていることを聞き、いろいろ考えさせられることも多いディスカッションでした。

## 第3部 フロア・ディスカッション (聴講者との質疑応答)

コーヒーブレイクをはさんで、今度は聴講者からの質問に各パネリスト達が答えていくという趣向のディスカッションです。モデレーターはEZpmp社のキム氏。すでに会場から集められていた質問に答えていきました。最初の質問は、「韓国のPCOは女性の割合が高いが、他の国はどうか?」。シンガポール、マレーシア、米国、そして日本ともに同じ傾向であるというパネリスト達からの答えに、会場の聴衆から「やっぱり」という声が聞こえてきました。やはり、女性ならではの極め細やかな対応がこの仕事に合っているということなのでしょう。国境を越えた共通項は多いのだな、と認識させられま

した。

いくつかの質問が出た後、会議における「スポンサーシップのあり方」、また売り方についての質問が出て、これはお国柄により違いがあるということをお国柄により違いがあるということをパネリスト達がそれぞれ発表しました。この辺は日本でも深く研究してみたい分野です。

最後に聴衆からの直接質問タイムもあり、終わってみると、時間はもう18時半を回っていました。長い時間ではありましたが、まだまだ議論はつきないという感じで、非常に有意義なセッションでした。ぜひ日本でもこのような企画を実現してみたい、また日本も海外のPCOとの交流をより一層図るべきではないかという思いにかられたソウルの夜でした。



### MICE 総研の主力業務

- ① 国際会議・国内会議・展示会に関する各種支援事業
- ② PFI・PPP (官業民営化) の推進
- ③ 会議施設・文化集客施設開発の企画・調査
- ④ 海外 MICE 関連事業調査
- ⑤ MICE 関連の広報・出版活動